

教科	音楽科
1学年 単元名『はくによってリズムをうとう』 授業実践・授業研修	
日時	令和7年6月19日(木)
授業者	平尾 美来
本時のねらい	グループで様々なリズムを試す活動を通して、リズムの違いを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取りながら、お気に入りのリズムを見つけて選んだ言葉を表現する。
キーワード	音楽づくり・拍・リズム・つながる・対話
授業の実際 (本時の子供の姿)	本時では、自分が選んだ好きな言葉に対して、お気に入りのリズムを付けて表現する活動を行った。子供たちは、グループでのやり取りを通して、拍によってリズムを打つ楽しさを感じたり、同じ言葉や同じ文字数の言葉を選んでいても、異なるリズムがあることに気付いたりすることができた。また、「全員でつなげて演奏してみたらどうなるだろう。」というつぶやきから、一人一人の演奏をつないで表現する面白さにも気付くことができた。
事後協議の概要	事後協議では、次の2点について話をした。1点目は、学習課題への接近の仕方についてである。本時では、常時活動を行った後、すぐにめあてを提示して活動に入ってしまう、何をしたらよいか困っている子供たちもいたので、前時での活動(全体で共通の言葉にリズムをつける)を改めて行い、本時では個人で決めた言葉について考えることを確認すれば、より意欲的に取り組むことができたと思われる。2点目は、グループ活動での手立てについてである。本時では、拍を通して様々なリズムを見付けることをねらいとしていたが、グループ活動に入るとただ手拍子をしている子供たちが多く、拍にのるという意識がもてていなかったため、グループごとに拍を感じるができるように、メトロノームを用意するなどの手立てが必要であった。 子供たちは、入学してからまだ約2か月半であるが、友達の話聞く時や活動する時のメリハリをつけ、みんなで学び合おうという雰囲気をつくることができている様子であった。

